

令和3年度自己評価結果公表シート

1. 教育目標

心身共に健康で円満な人格形成の基盤を培い、創造性を養い、幼児の個性を伸ばすことを目標としています。

1. 自分で考え、工夫するたくましい子に育てます。(自立)
2. のびのびと自分を表現できる子に育てます。(個性)
3. 社会のルールを身に付けた協調性のある子に育てます。(社会性)
4. 優しく思いやる子に育てます。(心)

2. 本年度の重点目標

教育目標に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教員自身が客観的に自分たちの幼稚園という思いで見直しを行い、クラス運営や教育内容、行事などについての在り方や改善に取り組んでいく。

特に令和3年度は、それぞれの園児の発達段階に即した経験の積み重ねや一人ひとりの育ちを理解して、保護者と連携した教育の実践を目指したい。

3. 自己評価結果

自己評価は段階評価とした。この評価結果は三学期末での評価である。5点満点であり評価点は教職員の平均点である。

達成されている	A	概ね達成されている	B
取り組まれているが十分ではない	C	取り組みが不十分である	D

I. 保育の計画性

内容	評価点
1. 園の教育理念・教育方針の理解	
・園の教育理念や教育方針を理解している	A
2. 幼稚園教育要領の理解	
・幼稚園の教育要領を理解していると思う	B
3. 教育課程の編成	
・園の教育過程をもとに保育の計画を立てている	B
4. 指導計画の作成	
・指導計画は教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している	A
5. 教育の構成	
・安全で清潔感のある環境構成をしている	A
6. 保育と計画の評価・反省	
・自分の保育と計画の評価・反省は行うようにしている	B

Ⅱ.保育のあり方、幼児への対応

内容	評価点
1.健康と安全の配慮	
・朝の登園時は得に視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確認している	A
・怪我や事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行っている	A
・万が一、事故や怪我が発生した場合は、園長に報告し保護者に連絡をとり、医師に見てもらするなど適切な処置を行っている	A
1. 幼児のみとりと理解	
・一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている	A
・幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている	A
・見えないところで活動している幼児についてもある程度その活動の様子を推察することができる	B
・幼児同士のかかわりの姿をとらえることができる	B

Ⅲ.教員としての資質や能力・良識・適正

内容	評価点
1. 専門家としての能力・良識・義務	
〔専門家としての能力〕	
・幼稚園教諭として専門知識や技能を身に付けている	B
・より高度な専門知識や技能を身に付けようと研修している	B
〔良識とマナー〕	
・保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている	B
・服装、髪型、身だしなみなど清潔感のあるものを心がけている	A
〔義務〕	
・職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている	A
2. 組織の一員としての有り方	
・教職員全員でひとつのチームであることを意識している	A
・会議や打ち合わせは時間を厳守している	A
・他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	B
・自分の意見と異なる結果となっても議論上で決定したことは協力し実行している	B
・子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	B
・当番や、役割による仕事は確実にやっている	B
・上司の指示、命令には責任を持って実行している	A
・教職員のプライバシーについてもこれを他へ漏らしていない	B
3. まわりを感じ取れる感性・アンテナ	
・幼児や教育に関する情報をたえずとらえようとしている	B
・幼稚園や幼児のことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	B

IV.保護者への対応

内 容	評価点
1. 情報の発信と受信	
・クラスや子どもの様子、自分の考え方、保育のポイントなどをクラスだよりなどで知らせている	B
・電話、連絡帳などで緊急な連絡等を行っている	A
・個々の子どもの様子は直接話をしたり電話、連絡帳などを使って伝え合っている	A
・場合によっては個別に保育の様子や子どもの様子を見てもらったり保護者と話し合ったりする	B
・自分の考えをきちんと話し、保護者の話は、心を開いてよく聞く	B
2. 協力と支援	
・保護者からの様々な訴え要望、意見については安易に受け取ったり、断ったり無視しないで、園長や主任、学年主任等に報告や相談をしている。	B
・保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことを教育的な意義付けをはっきりさせてからにしている	B

V.地域の自然や社会のかかわり

内 容	評価点
1. 地域の自然・人々のかかわり	
・地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	B
2. 小学校との連携	
・小学校の教育内容について理解しようとしている	C
・卒園した子どもの情報を得るようにしている	B
3. 地域への開放と支援	
・地域開放や子育て支援について具体的な形や内容を理解している	C

VI.研修と研究

内 容	評価点
1. 研修・研究への意欲・態度	
・研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している	B
・専門書や専門雑誌を読んでいる	A
・自分の保育のあり方や悩みについて他の教師や主任、園長と話し合っている	A
2. 教師としての専門性に関する研修・研究	
・指導とかかわりのあり方について研修・研究を行っている	B
・保育者同士の協力・連携のあり方について研修・研究を行っている	A
3. 道具・教材に関する研修・研究	
・園の遊具や教材についてさまざまな利用方法について研究している	B

4. 園内の環境に関する研修・研究	
・園地、園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し保育に生かしている	B
5. 今日的課題に関する研修・研究	
・障害のある幼児に対応する保育のあり方を学習している	A
・チーム保育について、その意義やあり方について研修・研究している	B
6. 自らを高めるための学習	
・趣味・人とのかかわりなどうまいのある生活を心がけている	C

4. 学校評価・自己評価における総合的評価と今後の課題

コロナの発生が相次ぎ、様々な行事を中止・変更せざるを得なかった。その中でも出来る事を考えて取り組んできたが、すべての行事において従来のものを見直しながらかつて行かうため、保育の計画が後手に回らないように常に話し合いの機会を持ちながら、進めていくことが出来たと感じている。

又、このような時だからこそ改めて子どもたちの健康と安全を願い、なお一層の配慮を心掛ける事が必要であると思う。

さらに、教員としての資質向上にむけての取り組みについても、一人ひとりの教員が話し合いの中で、自分の意見をしっかりと述べる事が出来るようになってきた事や、保育でタブレットを使用した動画や写真を撮影することで保育の振り返りだけでなく、園児の視覚支援に使用することも可能になり、さらに有効な使い方を模索している。

しかし、保護者対応については、クラスの中で起きた問題点を一人で抱え込んでしまうということもあった為、次年度はさらに同僚性を高める事を目標に取り組んでいきたいと思う。

地域の自然や社会の関わりについては、まだコロナの感染状況が心配な面もあり、なかなか進めていけないことが現状である。

研修と研究に関しては、専門書や専門雑誌を使用して常に新しい情報を学べる機会を持つようになっている。その中でも特に特別支援教育に対して適した環境配置や園児への対応について、教員同士で情報を共有しながら、共に学び合う姿勢が見られるようになったと感じている。

5. 学校評価委員会の評価

令和3年度も幼稚園内での保育と行事(発表会・通常保育・給食)などを見学していただき、日頃の子どもたちの姿を見ていただいた。コロナ禍で様々な行事が減る中、子どもたちが生き生きと楽しみながら園生活を楽しんでいることを評価していただいた。

やはり制約がある中でも行事を止めないで、どこまでなら進めていけるのかをしっかりと話し合い、感染防止対策を行いつつ、出来る事は取り組んでいく必要性を感じた。

また、ここ数年にわたり保育室の改修工事を実施し、経年劣化している箇所や床、壁紙などの全面張替えを実施したことで、保育室に清潔感が感じられるというご意見もいただいた。

教育要領が変わり、教育課程の見直しを改めて行う中で、今の時代に必要な保護者支援や園児への対応方法などを改めて考える事と同時に、附属幼稚園として新しい時代の中でも変わらずに残していきたい行事や保育内容を大切にしていきたい。